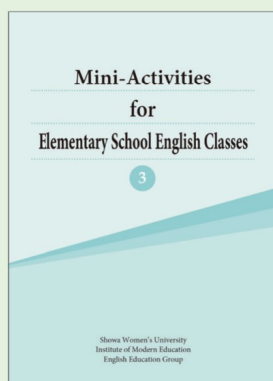




現代教育研究所

発行物のご案内



Mini-Activities for Elementary School English Classes

〈主な内容〉動機付けを高めるミニ・アクティビティ集

〔小学校英語 活動編〕

- ・ 何の鳴き声かな
- ・ Let's be animals!
- ・ Battle Ship
- ・ Matching card game
- ・ 図形で遊ぼう！
- ・ Who am I?

〔小学校英語 授業編〕

- ・ Find the "Mystery" Location
- ・ ビンゴゲームを通じて
英単語を復讐しよう！
- ・ Question Bingo
- ・ 英作文ゲーム
- ・ 好きな食べ物を紹介しよう
- ・ Memory Game
- ・ Circular ABCs
- ・ Guess who I am!

➡ 500円で販売しています



科学大好きな子供を育てる vol.1

〈主な内容〉

- I 教育リサーチ：これから授業が変わる？！
- II 日本理科教育学会における発表と本会の活動
- III チーム学校としての現場からの研究発信
- IV 先生。ただ今、研修会中
- V 挑戦してみよう！
「子供が喜ぶ生活科・理科の楽しい観察・実験」
- VI 若手教師、ただ今、チャレンジ中

➡ 無料で配布しています

ご希望の方は
kyoikuken@swu.ac.jp まで
お問い合わせください

松本大学フォーラムレポート REPORT OF FORUM in MATSUMOTO

「18歳からの教員育成～21世紀型能力を見据えた今日のエデュケーション課題と教員育成～」をテーマとし、2017年に教育学部を新設した松本大学を会場にして共催という形で出張フォーラムを開催しました。教員のキャリアアップを、大学における「養成」と教育委員会による「採用」、そして定年まで続く「研修」を連続的に考えることを目的とした、教員育成指標の策定が進められています。また教員の大量退職期を迎え、若い教員の育成は大きな課題です。直近の課題である小学校英語、特別の教科道徳などの実践を見据えて、教員のあり方や成長について考える機会となりました。

実践事例発表1「異文化理解を通した

コミュニケーション意欲の促進」

徳永典子（長野市立吉田小学校 教諭）

実践事例発表2「子どもに伝える道徳」

内川 才（松本市立波田中学校 教諭）

徳永先生からは「異文化理解を通したコミュニケーション意欲の促進」というテーマで小学校英語の実践を、また松本市立波田中学校の内川先生からは「子どもに伝える道徳」というテーマで、特別の教科道徳の実践を発表していただきました。これから始まる新たな教育課題の実践にとっても参考になる発表でした。

講演1「文部科学省の教員育成の動向」

武者一弘（松本大学 教授）

講演2「長野県教員育成指標について」

佐倉 俊（長野県教育委員会教学指導課主任指導主事）

文部科学省の教員育成の動向を教育行政学の武者先生に、長野県教員育成指標の作成について教学指導課主任指導主事である佐倉先生にお話していただきました。養成、採用、研修の一体改革の意味と、その背景を理解することができました。



シンポジウム「これからの学校教育を担う教師をどう育むか？」

～養成・採用・研修の一体改革のあり方を問う～

午後は現代教育研究所所長の友野先生の進行によってシンポジウムが行われました。

前出の佐倉先生、内川先生、武者先生の他、現代教育研究所副所長でカリキュラム論の緩利先生と、松本大学で英語教育が専門の和田先生をシンポジストに加え、それぞれの立場から教員の養成やキャリアアップについて議論を交わしました。フロアからの質問や意見も多く出され、大変充実したシンポジウムとなりました。

初めて地方で行われた教育フォーラムでしたが、長野県内から保育士、小中高等学校の先生方、教育委員会関係者、総合教育センターの関係者、そして昭和女子大学と松本大学の教員と学生など、のべ75名の方にご参加いただき、盛況のうちに閉会となりました。（文責：岸田）

昭和女子大学フォーラムレポート REPORT OF FORUM in SHOWA

第4回現代教育研究所フォーラムが2月17日(土)に8号館6階コスモスホールで開催されました。

「教科をこえる、社会にひらく！共創する学びへの招待～中学校・高等学校はどこにどう向かうべきか？」をテーマとし、新学習指導要領で「社会に開かれた教育課程」の基本理念に対し、これからの中学校・高等学校のあり方とつくり方を探求する一役になればという趣旨で行われました。



実践事例発表1「Co-Creative Learning Session という試み～食をめぐる学びの冒険～」

青木幸子(昭和女子大学 現代教育研究所 所員)

跡見学園中学校高等学校にて実施された Co-Creative Learning Session in ATOMI 2017 について語られました。教科の壁や学校の壁を越え、まずは専門家とともに半径5mの生活範囲から問いを見つけ探究してみようという挑戦について話されました。「食」をテーマにして行った「共創する学び」への現状が紹介されました。

実践事例発表2「地域とともに育む室蘭学の実践～地域の未来を創るあなた達の心～」

藤田真理子(北海道大谷室蘭高等学校 教諭)

「開かれた教育課程」として、進路学習のなかで「室蘭学」を、表現力とコミュニケーション力の育成、そして自ら学び続ける力の育成を目標に行われている現状が紹介されました。リサーチ・グループ・プレゼン・振り返りの流れで専門家のもとで学びを深めることにより生徒が変わり、生徒が変われば教員が変わり、教員が変われば学校が変わるということが話されました。

実践事例発表3「統合を契機とする学校新生への挑戦～「チーム大鳥、笑顔の楽校」へ～」

牛島順子(目黒区立大鳥中学校中学校 前校長)

新しい学校を作り出す際は、家庭・地域・関係機関が情報を共有し、共通の目標を見出すことの重要性を指摘されました。実践例として生徒が自主的に勉強しやすい環境づくりとして、生徒が考えたプランを実行している。また、保護者や地域の意見を頂きながら、全員で生徒と一緒に学校を作れる雰囲気構築しております。「学校」を「楽校」へと変革することを話されました。

基調講演「子どもの側に立つ「拡張する学校×共創する学び」への招待～いまだここにはないものを求めて～」

山住勝広(関西大学 教授)

「拡張する学校・共創する学び」について講話されました。教育の商品化をこえた「共通善」へ、個人による獲得を超えた集合的な積極的関与へ再構築することが大切であると話されました。そして、「活動システム」による共創、自分たち自身でより幅広くコントロールし、転換し、創造していくための学習「拡張的学習」により、学び手が教室の壁を超えた集合的な探求に積極的に関与することによって知を共創していく学びが大切と話されました。



シンポジウム「中学校・高等学校はどこにどう向かうべきか?～草の根「カリキュラム・オープンイノベーション」のススメ～」

コーディネーターから「理想を描く！これからの時代にふさわしい中等教育の姿とは？」について質問がありました。

それに対し「テーマ(問い)を持ちながら生徒が取り組めるような学校」「公立と私立の枠が低くなる学校」「学びたくて学ぶ学校」などシンポジストから述べられました。

更にコーディネーターからの「変革を阻む壁はなにか？」の問いに対し、シンポジストは「子どもが小学校から筋道を立てて学習をする経験」が多く身に沁みついているので、そう簡単に壁を超えられないのが現状で、表現力や思考力を高める教育が不足していると述べられていました。

(フォーラム記事担当：人間文化学専攻専攻 堂元慎也)

コア・プロジェクト CORE PROJECT

「Co-Creative Learning Session in ATOMI 2017」 後半！ワクワク・ドキドキのトピック・仕掛けをつめこんだコクリ・ワールド「食」をめぐる学びの冒険、後半のレポートです。
(前半は Newsletter5 号でレポートしています)

第4回

10月28日(土)

いい貿易って何だろう？～コーヒーカップの向こう側～

第4回セッションは10月28日。専門家としていらした開発教育協会の伊藤子さんが、ロールプレイを通してコーヒーの生産過程・価格決定のプロセスを考えるワークを行っていただきました。生産者になってみることで、コーヒーカップの向こうに見える世界を深く考え始めた生徒は次のように語りました。

「生産地の人々が本当の意味で自立するために、私は何が出来るのだろうか？考えたいです」「開発途上国の生産物価格の決定についてもっと知りたいです」

見えるものの向こうにある見えない世界に生徒の思いは広がります。



第7回

2月10日(土)

食の世界はどこまでひろがる？～プロジェクト成果発表～

専門家のセッションを通じて、そして、毎日の生活の中で見つけた「問い」をもとに、生徒たちの学びの探究・共創プロジェクトがスタートします。プロジェクトの作り方・進め方のアドバイス・個別ミーティング・リハーサルを終え、いよいよ2月10日成果発表会。ラインナップをご紹介します(右図のリスト)。「食」といって思いつくもの、そこからスタートした知の冒険。農業・科学・文学・貿易・加工食品それぞれのマスター(専門家)と共に旅したコクリワールドの中で、生徒たちはつづやきます「楽しい」「おもしろい」「深い」この生徒たちの言葉は、「ポップでディープなコクリ旅」を目指した私たちにとって大きな喜びであり、同時に次のコクリ冒険をドライブする大きな力となったのです。ワクワク・ドキドキの学びを目指す「コクリプロジェクト」これからも続きます。第二弾「衣プロジェクト」すでに始動中です。(文責：青木・緩利)

「食」をめぐる知の冒険に旅立とう！
～共創する学びへの招待～
Co-Creative Learning Presentation in ATOMI 2017

おいしい日本茶を召し上げよう！
～フレイバー日本茶への挑戦～

その非常食、もっと、おいしくなりますよ
～サバイバル生活でも idea が勝負～

宇宙食、作って、食べてみた
～宇宙食は無限にひろがる～

未来食はユートピア or ディストピア？
～人にとって食事は～

エキシビジョン
江戸東京野菜を知っていますか？
～種はタイムカプセル～

第5回

11月4日(土)

千尋の両親はなぜ豚になったのか？

～ジブリアニメ「千と千尋の神隠し」より～

第5回セッションは11月4日。中世古典文学の専門家中野貴文先生のサブカルを駆使したレクチャーに生徒は巻き込まれ夢中になっていきました。土地のものを食べるということは古典においてどう描かれてきたのか、そこをスタートに、ジブリアニメと中世文学のつながりにリンクするプログラムに生徒たちから歓声があがりました。「アニメ・古典・食が見事にドッキングしてワクワクしました」そう語る生徒たちは、食の世界と古典のつながりだけでなく、世界の文学における食とのリンクについても考え始めたのです。

第6回

12月16日(土)

加工食品はどのようにしてつくられるか？～企業努力の現場～

第6回セッションは12月16日。ニチレイフーズの方から学ぶ「出張工場見学」。リアル動画やパワポを使って冷凍食品ができるまでのプロセスを学ぶ生徒たち。教室にいながら、実際の工場見学でも見られない製造工程の映像をみたり、冷凍食品クイズに挑戦した生徒たちは次のように語ります。「冷凍食品への愛を感じました」「冷凍食品を上手に使う毎日の食生活を豊かで楽しいものにする工夫をしたい」と。最後に行った五味識別テストで、味覚を鍛えることの大切さを始めて感じたという生徒たちは毎日の食に対する考え方を大きく揺さぶられたと言います。

- ①チョコとうまくつきあう方法
～チョコの向こうにみえるもの～
- ②おいしい日本茶を召し上げよう
～フレイバー日本茶への挑戦～
- ③えっ、こんなに捨てられているの？
～フードロス・フードウェストを知ってますか？～
- ④その非常食、もっと、おいしくなりますよ
～サバイバル生活でも idea が勝負～
- ⑤宇宙食、作って、食べてみた
～宇宙食は無限にひろがる～
- ⑥未来食はユートピア or ディストピア？
～人にとって食事は～
- ⑦教員チームエグジビジョン
江戸東京野菜を知っていますか？
～種はタイムカプセル～

2018年3月に理科教育研究グループ研究報告書「科学大好きな子供を育てる」を刊行しました。刊行にあたって新学習指導要領を分析したり、最新の理科・生活科の指導法の実態についての情報交換を行ったりしました。この報告書は、いろいろな先生方に気軽に手に取って読んでもらえるように、子どもの「わくわく感」が深い学びへとつながる、教材や展開の工夫を多数紹介しています。

5月には八丈島にある三根小学校を視察しました。児童数が減り空き教室が目立っていましたが、子どもの作品が廊下や階段などに飾られていて活気を感しました。その後、現地の理科の先生が教材として活用している溶岩台地で鉱物の採取を行ったり、専門の指導員の案内で地熱発電所を見学したりしました。意外にも島の子どもたちが島の自然のことをあまり知らない実態があることを聞いて驚きました。八丈島の地熱発電所そう大きくはありませんが、それでも島で使う電力の4分の1を賄っています。我が国の地熱発電の可能性を感じました。(文責：白敷)

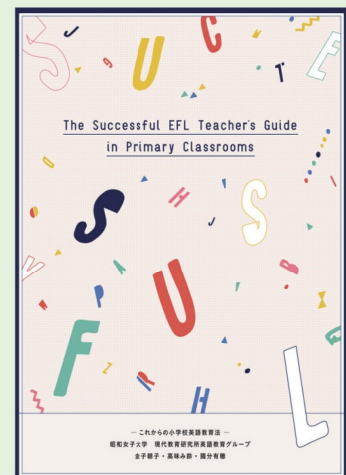


次期学習指導要領の施行される2020年度に、日本の英語教育に大きな変化が起きようとしています。この年から、小学校5・6年生では「英語が教科化」、小学校3・4年生では「外国語活動」が正式に開始されます。

「英語教育研究グループ」としては、小学校英語教育の一助となることを願い、今年の3月にMini-activityの第3号を発表しました。これまでの2冊は、『Mini-Activities in University Non-Major English Classes』というタイトルで、主に中高から大学レベルにおける学習者主導型の授業内で用いることのできるコミュニケーション活動を提案しましたが、今回は『Mini-Activities for Elementary School English Classes』とタイトルを変え、小学校英語教育で利用できるアクティビティに絞り、作成しました。中学年向けの小学校英語活動編、高学年向けの小学校英語授業編に分かれて、ゲーム等で使用するピクチャーカード等も付与されています。

また、今年の活動として、これら3冊に収めた活動をいくつか抜粋し、動画としてYouTubeで発信したいと考えています。更に、2016年度に大学生用テキストとして作成した児童英語指導書『The Successful EFL Teacher's Guide in Primary Classrooms ―これからの小学校英語教育法』を、新学習指導要領に合わせて改訂し発行する予定にしています。

今後も英語教育グループでは、様々な英語教育に関する課題解決に積極的に取り組んでいきたいと考えています。(文責：高味)



新年度早々の4月6日（金）14時から7日（土）13時まで、武庫川女子大学において、押谷由夫教授指導のもと、道徳教育研究グループの研修会を実施しました。6名の研究員が参加し、2018年度のグループとしての研究テーマと研究員各自の研究テーマを確認しました。そして、まず2018年度から小学校において完全実施となる「特別の教科・道徳」の教科書について、各出版社の理念や特徴がわかる資料の読み込みを行いました。

今後グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きていくためには、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備える必要があります。そのためには、道徳科の授業の充実を図るとともに、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育をより確実に展開することができる教科横断的な教材開発が不可欠です。そこで2017年度は「主体的で、対話的で、深い学び」に基づく道徳的資質・能力を育む授業改善（齋藤道子）とグローバル化時代における道徳教育のあり方に関する一考察（黒澤幸子・渡邊祐子）の研究を進めました。

2018年度は総合単元的・課題探究型の道徳の授業デザインの研究とともに、外国の道徳教育に関する研究も進めていきたいと考えています。（文責：黒澤）



2018年4月から、改訂された、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が施行されています。今回の改訂の大きな特徴に、3つの幼児教育機関の共通の課題として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を示したことにあります。

その10の姿とは、「ア. 健康な心と体、イ. 自立心、ウ. 協同性、エ. 道徳性・規範意識の芽生え、オ. 社会生活との関わり、カ. 思考力の芽生え、キ. 自然との関わり・生命尊重、ク. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、ケ. 言葉による伝え合い、コ. 豊かな感性と表現」というものです。内容自体は、10年前の改訂の折に示された、乳幼児教育の課題、「①基本的生活習慣の見直し、②コミュニケーション能力の育成、③道徳性・規範意識の育成、④運動能力の育成、⑤幼稚園・保育所・小学校・こども園の連携の内容」と類似していると思います。この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)に対して、パブリックコメントして、反対・疑義を唱える声も見られています。それは、「小学校入学」時点でのあるべき姿として、押しつけになるのではないかという懸念です。

確かに、現場の保育者からも、この10の姿を「到達目標」としてとらえるのかという質問もありました。昨年、改訂の内容が告示されると同時に乳幼児教育グループでは、安見克夫先生（東京成徳短期大学教授）をお呼びして、改訂の内容について講義を受けました。保育に正解はないという思いを強くしました。本年度も引き続き、現場の実践とつながら、「子どもの姿」「保育の姿」を見極める議論を進めていきたいと思っています。（文責：横山）



紫陽花をつくる・4歳児

表現教育グループ

表現教育グループは、2018年2月21日、二人のゲスト講師を招いて「パフォーミング・アーツの魅力」と題する研究会を開催しました。

全体は2部構成で、まず第1部がコンテンポラリーダンサー小野明子氏によるレクチャー＆ワークショップ「身体は表現するーダンスの今」。コンテンポラリーダンスの動向や特徴について講義を受けた後、参加者もリリーステクニックやボディパーツを利用した即興表現に挑戦しました。そして第2部は、研究所研究員で舞台美術演出家の久米ナナ子氏がプロデュースした『TANABATA』のロンドン上演映像を鑑賞しながら、「パフォーミング・アーツの魅力をどう子どもたちに伝えるか」、全員でディスカッションを行いました。シンボリックな舞台表現に接したイギリスの子どもたちの反応が興味深く、アート教育について考える良い機会となりました。

表現教育グループは、今年度、秋桜祭での学生によるアート・パフォーマンスのサポートなど外部に向けて発信する活動も積極的に行っていく予定です。（文責：永岡）



教育課題グループ

2018年1月31日、「北条プラン」で知られる館山市立北条小学校教務主任兼カリキュラム管理室長の庄司智和教諭をお招きし、「北条教育を活性化するカリキュラムマネジメント～カリキュラム管理室を中心に～」と題して実践報告をしていただきました。

カリキュラム管理室は1966（昭和41）年に創設され、学年、教科、月別に作られた660の棚が設置されています。棚の中には指導案、ワークシート、子どもの活動記録、写真などが指導者の反省等とともに納められ、それらの資料は共有財産として、全ての教職員がアクセス可能となっています。同室は全体として情報の管理を担っていますが、物的支援を主目的とする第1管理室と人的支援を主目的とする第2管理室に分かれ、第2管理室の資料はデータ化、校内ネットワークにも保存されているそうです（デジタルカリキュラム管理室）。また同室は学年経営の拠点ともなっており、そこでの情報共有や連携は教員の資質向上につながり、学校全体の学力を向上させることに効果を上げているとい



います。まさに、カリキュラムを開発、改善、更新する「プラン実践検証サイクル」が成立しています。庄司教諭によれば、カリキュラムを運営していくポイントは、全教職員が関わりを密にし歩調を整える点にあります。

一方で、時代に対応する学習の増加や教職員の時間の確保等の課題も指摘されました。2017年改訂学習指導要領で掲げられた基本理念「カリキュラム・マネジメント」の意義や課題について重厚な蓄積から示唆を得ることのできる勉強会となりました。（文責：歌川）

私学教育研究グループは、私学教育に関する研究と学生参加の場の提供の2点を中心に活動を行っています。

前者については、私学教員の研修についてのアンケートを行い、それを踏まえて、教員育成プランを提示することを検討しています。

後者については、研究員座談会と高校でのボランティア活動です。研究員座談会は、私学の教師である研究員と主に教職を志望する学生との懇談会です。これまで4回実施し、最近では今年2月3日（土）に行いました。参加学生は6名で、私立学校やその教師の仕事や生活についてのお話と、質疑応答により進めました。高校でのボランティアは、今年になって新たに始めた取り組みで、ある研究員の勤務校である私立岩倉高等学校（上野）での学生ボランティアです、学校行事（百人一首大会・合唱祭・体育祭）の補助や、HRでの学生生活についての話などを行っており、これまで延べ20人以上が参加しました。高大連携の一つの試みとして、今後とも継続・発展させていくことを考えています。ただ、公欠の事由に該当しないため、授業日での参加が難しいという課題もあります。（文責：友野）



トルストイ研究グループの研究活動は二つに大別されます。一つは研究グループの始まる以前より学内の有志によって続けられてきた、八島雅彦氏訳・人見楠郎先生監修の『トルストイのアーズブカ』の輪読研究会です。知られる通り、トルストイ学校の教科書としてレフ・トルストイが自ら纏めたこの本は、民話の採録・再話の側面を持ちつつも、教科書としての編集意図をもって作られたものであり、ときにロシア文学の専門家の同席も得ながら、文学と教育の両方の切り口からその本質を探ろうとしてきました。研究会そのものはフランクに自由な意見を交わし合うものです。残り数話となり、今年度中にひとまず完了の予定です。

その後の研究課題として、以下の二点を考えています。第一に本学図書館トルストイ文庫所蔵資料による、明治末期以降の日本における〈トルストイ教育〉像の検証です。第二に、ヴィゴツキーをはじめとする近現代の研究者による、トルストイの教育にかかわる言説についての諸論の整理と検討です。今後グループの先生方とご相談しながら、細かな方向性や方法を決定したいと思います。また、ご関心のある皆様の参加をお待ちしています。（文責：平野）



Newsletterのページ数を増加し、発行を年に一度に変更しました。研究所の開所時間も長くなりました。今年度は武庫川女子大学での出張フォーラムも予定しており、年に二回の大型フォーラムが今年度も実現できそうです。

現代教育研究所

所在地：大学6号館（旧2号館東棟）2T01B
開所時間：月・水・木・金（9:00～17:30）